

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について

平成 18 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号を発表したので送付します。

平成 18 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

1. 病害虫名 : トマト黄化葉巻病

2. 病原ウイルス : トマト黄化葉巻ウイルス *Tomato yellow leaf curl virus* (TYLCV)

3. 対象作物名 : トマト、ミニトマト

4. 発生地域 : 沖縄本島南部 (豊見城市)

5. 発生確認の経緯

1) 平成 18 年 12 月 15 日、沖縄本島南部 (豊見城市) の施設トマトおよびミニトマトにおいて、上位葉が黄化、萎縮する株が発生した。

株の症状からトマト黄化葉巻病が疑われたため、平成 19 年 1 月 5 日、沖縄県農業研究センターにおいて PCR 法による検定を行った。その結果、トマト黄化葉巻病である可能性が高まったため、平成 19 年 1 月 12 日、独立行政法人九州沖縄農業研究センターに PCR 法による検定を依頼した結果、本県では未発生のトマト黄化葉巻病であると同定された。

2) 本病は、平成 8 年に長崎県、愛知県、静岡県で初めて発見された。その後西日本を中心に分布を拡大し、平成 18 年 12 月 1 日現在、29 府県で発生が確認されている。

6. 病徴・伝搬・寄主等

1) 病徴

発病すると、上位葉の黄化、葉巻、萎縮、落花 (果) などが起こり (写真 1, 2) 被害がひどくなると収穫皆無となるおそれがある。発病前に着果した果実は正常に発育するが、発病後は開花しても結実しないことが多い。

2) 伝搬

本病は、タバココナジラミ (シルバーリーフコナジラミ) の成虫によって媒介される (写真 3)。本種は、一旦本病ウイルスを獲得すると死亡するまで伝搬能力を持つ (永続伝搬)。本病は、接木伝染はするが、汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしない。国内では、タバココナジラミによる経卵伝染は報告されていない。なお、タバココナジラミは 500 種以上の植物に寄生する。

3) 寄主（これまでに感染が報告されている植物）

作物（感染および発症する）	トマト、ミニトマト、トルコギキョウ、インゲンマメ
作物（感染のみ）	ピーマン、ジャガイモ、ペチュニア、ポインセチア、ヒャクニチソウ、チョウセンアサガオ
雑草（感染のみ）	ハコベ、ウシハコベ、エノキグサ、タカサブロウ、ノゲシ、ノボロギク、ベニバナボロギク、センナリホオズキ、イヌホオズキ、ウサギアオイ、ホソバツルノゲイトウ

7. 今後の予想

既に発生が確認されている他府県においては半年程度で発生が拡大した事例があること、および温暖な本県では媒介虫であるタバココナジラミの活動が他府県よりも活発であることから、今後発生地域が広がる恐れがある。現在は沖縄本島南部地域の数地点でのみ発生が確認されているが、北部地域（今帰仁村）でも類似の症状が報告されているため、全県的な発生確認調査を早急に行う必要がある。

8. 防除対策

1) 罹病株の抜き取り処分

トマト黄化葉巻病の病徴が見られる株は、早急に抜き取り処分する。抜き取った株は放置せず、ビニール袋に入れるなどして密閉処分する。ミニトマトでは病徴がわかりにくいことがあるが、疑わしい株は処分する。また、発生地域（県外）からの苗の持ち込みをしない。

2) タバココナジラミの防除

- a 施設の開口部には目合いの細かいネットを使用する。特に、入口はネットで2重カーテンをし、タバココナジラミの侵入・逃亡を防ぐ。完全に侵入を防ぐには、目合い0.4×0.3mm以下が必要となる。
- b タバココナジラミの発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- c 近紫外線カットフィルムや黄色粘着板、光反射フィルム等を活用し、侵入を防止する。
- d 登録農薬による防除を行う（トマトとミニトマトでは登録薬剤が異なる場合があるので注意）。防除の際は、登録の有無、散布履歴、収穫前日数等を確認し、ミツバチ等による交配をしている場合は影響の少ない剤を選択する。また、コナジラミ類は薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤を連用しない（表1）。
- e トマト黄化葉巻病が発生している施設への立入りはなるべく避け、やむをえず作業等で施設内へ入った場合は、コナジラミの拡散を防ぐため、衣服や髪などを払った後に施設を出ること。

3) 野良生えトマトの除去

管理されていない施設内外のトマトおよびミニトマトは、トマト黄化葉巻病やタバココナジラミの発生源となるため、除去する。

4) 栽培終了後の管理

栽培終了後は、タバココナジラミを薬剤防除したうえでトマトを抜き取り、施設を2～3週間密閉して、完全に枯死させる。



写真1



写真2

写真1、2：トマト黄化葉巻病の症状（トマト）



写真3

写真3：
タバココナジラミ成虫
（媒介虫）

表1 トマトおよびミニトマトにおいてコナジラミ類に登録のある主な薬剤（平成19年1月12日現在）

系 統	薬 剤 名	成 分	適用作物	薬剤が影響
合成ピレスロイド	トレボン乳剤	イフェン [®] ロックス	トマト	20
クロロニコチニル	ベストガード水溶剤・粒剤	ネピ [®] ラム	トマト ミニトマト	10・30
	アドマイヤー水和剤・粒剤	イダ [®] クロ [®] リド	トマト (ミニトマト)	30・35
	アドマイヤー顆粒水和剤	イダ [®] クロ [®] リド	トマト ミニトマト	30
	バリアード顆粒水和剤	ファクロ [®] リド	トマト ミニトマト	-
ネオニコチノイド	ダントツ水溶剤・粒剤	クロ [®] ア [®] ジ [®] ン	トマト ミニトマト	-
	ベニカ水溶剤	クロ [®] ア [®] ジ [®] ン	トマト ミニトマト	-
	アルバリン顆粒水溶剤・粒剤	ジ [®] ノ [®] フラン	トマト ミニトマト	-
	モスピラン水溶剤・粒剤	アセタ [®] ミ [®] リド	トマト ミニトマト	1～3・10
	アクタラ粒剤5	ファ [®] メ [®] キ [®] ム	トマト	21
IGR	アブロード水和剤	ブ [®] ロ [®] フェ [®] ジ [®] ン	トマト	1
	ノーモルト乳剤	テ [®] ル [®] バ [®] ンス [®] ロン	トマト ミニトマト	1
その他1	サンマイトフロアブル	ピ [®] リ [®] ガ [®] ベン	トマト	1～4
その他2	チェス水和剤・粒剤	ピ [®] メ [®] ロ [®] ジ [®] ン	トマト ミニトマト	0・0
	チェス顆粒水和剤	ピ [®] メ [®] ロ [®] ジ [®] ン	トマト ミニトマト	0
その他3	カウンター乳剤	バ [®] ル [®] ロン	トマト	-
その他4	コロマイト乳剤	ミ [®] ル [®] バ [®] ク [®] チ [®] ン	トマト ミニトマト	-
その他5	ハチハチ乳剤	トル [®] フェ [®] ピ [®] ラ [®] ド	トマト ミニトマト	-
その他6	オレート液剤	ホ [®] レ [®] イ [®] 酸 [®] ナ [®] トリ [®] ウム	トマト	1
その他7	粘着くん液剤	デ [®] ソ [®] ン	トマト	0

適用作物の（かっこ）書きは粒剤のみの登録の意味。薬剤が影響は日数を示し、（矢印）はその日数以上、-は不明の意味（日本バイオロジカルコントロール協議会第15版より引用）

農業の使用にあたっては、必ずラベルを確認してから使用すること。